

東北学院大学教育研究所2015年度活動

1. 教育研究所報告集第16集 配布・発送:2016年3月

学内配布352部 学外発送232部

2. 所員会議 2015年8月1日(土)

泉キャンパス 東北学院大学教育研究所

1. 報告事項

(1) 2014年度予算決算

2014年度予算執行、購入図書リスト確認

(2) 2015年度学会出張

① 2015年度学会・参加者報告(終了・確定分)

・大学教育学会(6月) 渡部友子先生

・東北・北海道地区大学等・共通教育研究会(8月) 片瀬一男先生

(3) その他

① 教育研究所臨時総会

(ア) 書面協議として実施(2015年1月26日～2月24日)

(イ) 教育研究所規程改正(案)を全会一致で承認

(ウ) 教学改革推進委員会の決定にもとづく副学長からの要請によることを説明

2. 審議事項

(1) 2015年度の活動計画(予算)

① 示達書をもとに、大学教育学会会費を会誌会員から団体会員に変更したことの説明があり承認された。

② 予算変更願・予算残高一覧をもとに、執行状況についての説明があり承認された。

(2) 研究所報告集第十六集(2016年3月刊行予定)の編集方針

① 投稿規程(案)について

渡部友子先生より「投稿規程(案)」について説明があり、第5条以外について承認、第5条については渡部先生が修正案を作成し、書面にて審議することとした。

② 論文締め切り日について

12月20日厳守 (印刷・製本・発送が3月までのため)

③ 執筆者および原稿の内容について

- ・片瀬一男先生 卒業生意識調査の分析
- ・神林博史先生 新入生意識調査の分析
- ・渡部友子先生 英語教育センターについて
- ・執筆者未定 アクティブラーニングに関する内容（執筆候補者の選定を天野和彦先生に依頼した。また、別途千葉昭彦先生にも執筆者の選定について依頼していることが報告された。）
- ・執筆者未定 東北学院大学の教育を考える（第10集から第12集にかけてシリーズ化していた内容。今年度末で退職する教員のうち適当な方に依頼する。）

(3) 新規事業の申請、2016年度予算編成

① 予算編成に係わる重点項目（8/25締め切り）について

- ・片瀬一男先生より、今後IR機能を充実させていきたい旨の発言があった。

② 新規事業計画書、機器備品購入計画書（12月初旬締め切り）について

- ・先生方に期日が近くなったら希望を募る。

(4) その他

- ① 2015年度の卒業時意識調査の調査票案を片瀬一男先生が年内をめどに作成し、メールにて審議する。
- ② 意識調査の個人情報（学生番号）の記入について、所長が副学長に確認する。
- ③ 金井嘉宏先生より発言があった「英語での授業」について意見を交換した。

教育研究所参加の2015年度学会・研究会

以下、教育研究所が機関会員になっているFD関係の学会ならびに所員が継続的に参加している研究フォーラム等の2015年の活動を報告します。この種の学会やフォーラムに参加を希望される教職員は、本学の「FD推進委員会」管轄の旅費をご活用して下さい。詳しくは、各学部のFD推進委員会委員にお問い合わせ下さい。

1. 大学教育学会第37回（2015年）大会

会場校：長崎大学文教キャンパス

日 時：2015年6月6日（土）、6月7日（日）

参加者：渡部 友子

統一テーマ「ところで学生は本当に育っているだろうか？」

趣旨：教育を変えなければという動きが生まれ、現在多くの大学で授業評価やFD、アクティブラーニングやポートフォリオなどを取り入れるとともに、アウトカムの「見える化」への努力がなされている。しかしその努力に懸命になるほど教員は「学生たちは育っているか」の確認を忘れがちである。本大会はその視点でこれまでの取り組みを振り返る端緒を提供したい。

6月6日（土）

ラウンドテーブル18件（同時進行）：15「発達障害への学生支援・大学教育の役割」に参加

司会者：橋場論（福岡大学）、望月由起（昭和女子大学）

報告者：山中淑江（立教大学）、大島啓利（広島修道大学）、岩田淳子（成蹊大学）、村松健司（首都大学東京）

概要：学生相談担当者から、以下の課題について報告があった。

発達障害グレーゾーンの学生をどのように支援しているか

従来の支援の仕方は「合理的配慮」になりうるか

「学び」に主軸を置いた支援員とカウンセラーの連携は可能か

就労支援はどのように進めるべきか

基調講演「考えるとはどういうことか」（学生も聴講）

講演者：立花隆（評論家・ジャーナリスト）

概要：20代後半から30代前半の脳は発達はまだ完了しておらず、可塑性をもっている。学生は自ら考

え、自分の脳を成長させてほしい。デカルトは数学的思考をした人で、絶対的な真理の存在を信じ、それを求めて思考するべきだと主張した。デカルトを批判したヴィーゴは工学的思考の持ち主で、絶対的な真理は存在せず、試してみないと正しいかどうかは分からないと考えた。問題が複雑化している現代では、「答えは一つ」という前提を捨て、「答えは複数あるかも知れないし、答えがない可能性もある」という前提で思考すべきである。

公開シンポジウム「学生の育ちをみる」

パネリスト：深澤晶久（実践女子大学／前資生堂人事部）、溝上慎一（京都大学）、丸野俊一（九州大学）、早川信夫（NHK解説委員）

指定討論者：深堀聰子（国立教育研究所）

司会：山地弘起（長崎大学）

概要：深澤氏は、考える習慣や答えのない課題に取り組む経験が最近の新卒者に不足していることを指摘し、企業の新人研修でそれに取り組んだことを紹介した上で、大学でも「自分で考え行動してやり遂げる」経験をさせるべきだと主張した。溝上氏は、自身の調査結果を基に、大学で身につけるべき知識や能力の中には主に授業外で習得されるものもあると指摘し、我々は学生の育ちを多面的に支援するべきであると主張した。丸野氏は九州大学での先進的な学際的プログラムの実績を紹介しながら、適度の深さと幅を持った学びを達成した者は企業等から高く評価される傾向にあると報告した。早川氏は、大学が学生の主体的な学びを育むことを目指すとしながら、自らが国の言われるままになっている（主体的に考えていない）ことを鋭く指摘した。

6月7日（日）

シンポジウムI「学士課程教育における共通教育の質保証」

シンポジスト：高橋哲哉（大阪府立大学）、高野篤子（大正大学）、林透（山口大学）

司会：山田礼子（同志社大学）

概要：共通教育の成果をどのように評価するかについて、3件の報告がされた。

- ① 共通教育の実施状況の全国調査（実施責任者に対する間接評価）
- ② 数学教育の現状調査（学生に対する直接評価）と文系向け数学教育の提案
- ③ 山口大学でのコモン・ルーブリックの開発

シンポジウムII（IIIと同時進行であったため参加せず）

「FDの実践的課題解決のための重層的アプローチ」

シンポジウムIII「発達障害学生への学習支援・大学の役割」

シンポジスト：青野透（金沢大学）、小川勤（山口大学）、片岡美華（鹿児島大学）

司会：青野透（金沢大学）

指定発言：橋場論（福岡大学）、望月由起（お茶の水大学）

概要：障害者差別解消法が2018年4月に施行されると、大学は障害学生に対しての「合理的な配慮」が義務づけられるため、具体的な対応方法の検討を始めるべき時期にきている。発達障害は障害が見えにくいいため対応が難しい。学力はあるので入試を突破して入学してくる。従来の知識重視型教育では支障がないが、グループ活動や論文執筆で問題が表面化しやすい。彼らとどう関わり支援すべきか、彼らにとって困難な課題は別の課題に置き換えるべきか、大学全体で考えなければならない。

（文責：渡部 友子）

2. 第65回東北・北海道地区大学等 高等・共通教育研究会

会場校：山形大学 小白川キャンパス

日 時：平成27年8月27日～28日

出席者：1名 片瀬一男

全体テーマ「魅力的な学士課程教育の構築に向けて」

1991年の大学設置基準の大綱化を契機に日本の大学数と入学者数は2倍となり、進学率も50%を超えてユニバーサル段階に入った。そのためどの大学も多かれ少なかれ深刻な問題を抱えることになった。とくに学士課程教育のカリキュラムの見直しや、授業法の改善を行わざるを得ない状況になった。こうした学士課程教育の改革期にあって、「人間力」（厚生労働省）や「社会人基礎力」（経済産業省）の育成、初年次教育やキャリア教育、アクティブラーニングの実施などの新たな時代の要求は、専門教育以外の分野、すなわち教養教育＝全学共通教育に期待され、否応なくその多くを担わされることになった。さらに大学を取り巻く環境は、18歳人口の減少に伴い、多くの大学が学生定員を確保できない深刻な問題を抱えている。全国レベルでも東北・北海道地区は厳しい状況にある。こうした環境下にあって、大学が生き残るためにはそれぞれの大学が強みを持たなければならないと言われている。そこで、それぞれの大学の質的な違いにもとづいた魅力を再発見あるいは新たに構築し、それを学生や社会に示していくことが求められている。この全体テーマは、加盟校の魅力ある学士課程教育を参加者で共有し、磨き上げていくことを願って設定したという。

全体会Ⅰ 基調講演

「公開・共有・相互研鑽による大学教育改革：改革もローマも一日にしてならず」

基調講演は山形大学の小田隆治教授による「公開・共有・相互研鑽による大学教育改革：改革もローマも一日にしてならず」であった。この講演では小田教授が、専門の生物学ともに取り組んできたこれまでのFD活動や大学間連携組織「FDネットワーク“つばさ”」、大地連携（大学と地域の連携）などについて、具体的な事例をもとに紹介がなされた。

分科会

（1）第1分科会テーマ 「アクティブラーニングとFD」

この分科会では、アクティブラーニングとそれに関係したFDの取組に焦点を当てて、事例の交換と、意見の交流がなされた。アクティブラーニング(AL)については、新聞等でも紹介されることが多いものの、小学校現場での取組が中心になっている。タブレット端末を使用した取組が多いが、グループワークを取り入れた取組もあり、その形態は様々である。大学においても学生主体型をキーワード多くの大学で取組まれている。FDにおいても、教員の教育方法の改善を目的とするALも行われてきた。また、山形大学においても教育GPとして3年間、行ってきた。ALで学んできた学生が入学してくることや、学生のよりよい学びの手法として今後、高等教育機関でますます増えていくことは明らかである。この分科会では、事例を紹介するとともに、その問題点を認識し、共有していた。

（2）第2分科会テーマ 「教育の質保証とIR」

この分科会では、英語や理系基礎科目といった科目単位での質保証や教育評価から、学部学科・全学の教学IRにいたる話題を取り扱った。ステークホルダーの観点から、大学教育の質保証及びアウトカム評価がますます重要になっている。これまで大学教育の充実においては教員個人の努力と裁量に任されてきたが、教育の質保証を実現していくにあたって、科目内での教育内容・教育評価の相対性を意識し教育改善のための協働を実施していく、といった教員個人を超えた取組が必要になる。さらに、質保証をディプロマ・ポリシーの側から考えたとき、学生の入学前から入試、在学中・卒業後の動向を統合的にアウトカム分析しカリキュラム改善に生かしていくIRは不可欠だが、実践と経験の蓄積といった面では各大学において端緒についたばかりである。語学・理系基礎科目・大学導入科目といった科目単位での質保証の取組、学部学科から全学単位での教学IRによる実践まで広範囲の話題提供がされた。

(3) 第3分科会テーマ 「高大接続・初年次教育・キャリア教育」

この分科会では、高大接続、初年次教育、キャリア教育の取り組みに焦点を当てて、事例の交換と、意見の交流を図られた。昨年末に出された中教審答申以後、高大接続の問題は、改めて多くの大学人の関心を集めている。関心の的はなにより、予告されている新テストを踏まえた大学入試の形にあるが、あいにく現時点では新テストの具体的な形態は明らかでないこともあり、入試の具体的な形態については、まだ踏み込んだ取り組みが難しい状況である。そこで、本分科会では、少し視野を広げて、高校から大学へ、また大学から社会へという流れに沿い、「初年次教育」、「キャリア教育」という2つのキーワードをつけ加えた。入学後の初年次教育の形態や、卒業後を見越したキャリア教育の取り組み、それ自体として重要なテーマであると同時に、高大接続の問題について考える際の枠組みを明瞭化する上でも資することが期待された。なお本学からは片瀬が「2009-2015年度卒業時調査からみた大学教育の現状と課題」と題して報告を行った。

全体会Ⅱ

2日目の全体会Ⅱでは、事例報告として、文部科学省高等教育局大学振興課大学教育改革推進室専門員の辻邦章氏による「主体的な学びの確立と学士課程教育の質的転換」についての講演があった。2018年頃からの長期的な18歳人口の減少による大学入学定員確保の困難さ、いわゆる「2018年問題」は、これからの大学の死活を我々に突き付けている。個々の大学の存亡は、規模のいかに問わず、その大学が存立する地域の維持発展とも深く結びついており、東北・北海道地区の発展のためには、大学はこの「2018年問題」という危機的状況乗り越えていかなければならない。そのためには、アクティブラーニングの導入を柱に、学生の主体的な学びを促すことによって、従来型の学士課程教育を質的に転換していく必要が強調された。(文責：片瀬 一男)

3. 大学教育学会2015年度課題研究集会

2015年11月28日(土) 岩手医科大学矢巾キャンパス

11月29日(日) 岩手大学

参加者：渡部友子・金井嘉宏

統一テーマ：「連携」から広がる新たな時代の大学教育

大学は社会からさまざまな要求を突きつけられている。その要求に応える以上に、次の時代を創造していかなければならない。その打開策として「連携」がある。単独の大学にあっては閉塞状況にあるところも存在するが、連携することが各大学の社会への開きに通じ、そこから光が見えるかもしれ

ない。本会は課題研究会史上、はじめて大学間連携で開催された。

11月28日（土）

基調講演 多職種連携と徳育（公開講演）

講演講師：小川 彰（岩手医科大学 理事長・学長）

幅広く深い知識と高い技術が必要とされる医療専門職を育成するにあたっては、全人的教育が必須要件として求められる。また、医療の現場では、複数の職種で構成されるチームが、患者とその家族に対応していることから、多職種連携の教育が重要になってきた。しかしながら、この多職種連携教育は、目新しいものではなく、明治30年に創立された岩手医科大学の前身である岩手医学講習所の時代からあったものである。当時、併設されていた岩手病院には医師養成とともに産婆看護婦を養成する学校が作られており、医療は医師だけでは成り立たないことをすでに認識していた。

日本の医療は世界トップクラスであり、その大きな要因は医療人として倫理的資質が優れているためである。その倫理教育に関しても、徳育あるいは武士道精神として日本人に古くから浸透したものである。本邦における医療教育の歴史を振り返ることで、太平洋戦争後にこうした精神が教育現場においてないがしろにされた弊害と、徳育および多職種連携教育の重要性が述べられた。

開催校企画シンポジウム「多様な連携による大学教育の質向上の可能性」

シンポジスト：後藤尚人（岩手大学）「高大連携と地域連携」

小林幸徳（北海道大学）「北海道地区国立大学における教養教育連携」

橋爪孝夫（山形大学）「大学間連携と地域連携」

佐藤龍子（龍谷大学）「産学連携による就職支援」

司会：小田隆治（山形大学）

概要：高大連携のために岩手で行われている「ウィンターセッション（大学における高校生のための公開講座）」（年末に2泊3日で開催）や、北海道内での教養教育連携のための双方向遠隔授業システム、山形における大学と過疎地域の連携、京都における産学連携など、さまざまな連携が紹介され、その効果と課題が議論された。

11月29日（日）

シンポジウムⅠ「学士課程教育における共通教育の質保証」

シンポジスト：松下佳代（京都大学）、山田礼子（同志社大学）、高橋哲也（大阪府立大学）

鳥居朋子（立命館大学）

指定討論者：小笠原正明（大学教育学会会長）

司会：深掘聡子（国立教育政策研究所）

概要：質保証の要となる学習成果の評価に焦点をあてて行われてきた課題研究であるが、課題研究集会では最後の発表である。以下のサブテーマごとに報告された。

サブテーマ1 共通教育における学習成果の直接評価

サブテーマ2 数理科学分野における共通教育の質保証

サブテーマ3 共通教育における学習成果の間接評価

サブテーマ4 共通教育における質保証のためのマネジメント

シンポジウムⅡ「発達障害学生への学生支援・大学教育の役割」

シンポジスト：青野 透（徳島文理大学）、石塚陽二（独立行政法人日本学生支援機構 学生生活部障害学生支援課長）、吉武清實（東北大学）、小川 勤（山口大学）

司会者：山中淑江

概要：2016年4月に施行される障害者差別解消法では、合理的配慮の不提供を差別と規定している。障害学生への教育上の配慮、特に発達障害学生の修学継続、卒業・進学・就職に関する配慮の内容と方法について、何が合理的であるのかが議論された。発表タイトルは以下の通りである。

青野 透 「合理的配慮は事務・事業の目的・内容・機能の本質的な変更には及ばない—政府基本方針の文言の意味—」

石塚陽二 「発達障害学生支援・配慮の申し出から対応に至るまでのプロセス—全国416高等教育機関の事例収集・分析から—」

吉武清實 「発達障害学生の進路支援の諸問題」

小川 勤 「発達障害学生に対する移行支援の基本的考え方—学内外支援組織との連携・協力を中心に—」

シンポジウムⅢ「アクティブラーニングの効果検証」

（シンポジウムⅡと同時間帯であったため参加せず）

（文責：金井 嘉宏）

4. 第22回大学教育研究フォーラム

会場校：京都大学

日 時：2016年3月17日（木）～18日（金）

出席者：2名 千葉昭彦、水谷修

教育研究所購入図書一覧（2006年度以降）

教育研究所の所蔵図書の閲覧・貸出を希望される教職員は、当研究所までお申し出ください。

2015年度購入図書一覧（和書・順不同）

- ・高等教育の社会学、パトリシア・J・ガンポート、玉川大学出版部、2015年
- ・大学教育の変貌を考える、三宅義和、ミネルヴァ書房、2014年
- ・大学生の学習ダイナミクス、河井亨、東信堂、2014年
- ・大学は社会の希望か、江原武一、東信堂、2015年
- ・大学改革を問い直す、天野郁夫、慶応義塾大学出版会、2013年
- ・アウトカムの基づく大学教育の質保証、深堀聰子、東信堂、2015年
- ・大学のI R Q & A、中井俊樹、玉川大学出版部、2013年
- ・大学版I Rの導入と活用の実際、佛淵孝夫、実業之日本社、2015年
- ・「深い学び」につながるアクティブラーニング、河合塾、東信堂、2013年
- ・ラベルワークで進める参画型教育、林義樹、ナカニシヤ出版、2015年
- ・未来の大学教員を育てる、田口真奈、勁草書房、2013年
- ・協働で学ぶクリティカル・リーディング、舘岡洋子、ひつじ書房、2015年
- ・立命館大学（I R方式・センター試験併用方式）、数学社編集部、数学社、2015年
- ・アカデミック・アドバイジング、清水栄子、東信堂、2015年
- ・主体的学びにつなげる評価と学習方法、スー・フォスタティ・ヤング、東信堂、2013年
- ・主体的学び創刊号パラダイム転換、主体的学び研究所、東信堂、2014年
- ・主体的学び2号反転授業がすべてを解決するのか、主体的学び研究所、東信堂、2014年
- ・主体的学び3号アクティブラーニングとポートフォリオ、主体的学び研究所、東信堂、2015年
- ・思考し表現する学生を育てるライティング指導のヒント、関東地区FD連絡協議会、ミネルヴァ書房、2013年
- ・現代日本の教育課題、村田翼夫、東信堂、2013年
- ・大学理念と大学改革：ドイツと日本、金子勉、東信堂、2015年
- ・大学生の日本語リテラシーをいかに高めるか、成田秀夫、ひつじ書房、2014年

2014年度購入図書一覧（和書・順不同）

- ・シリーズ大学7巻対話の向こうの大学像、広田照幸、岩波書店、2014年
- ・高等教育研究 第1集、日本高等教育学会、玉川大学出版部、1998年
- ・高等教育研究 第2集、日本高等教育学会、玉川大学出版部、1999年
- ・高等教育研究 第3集、日本高等教育学会、玉川大学出版部、2000年
- ・高等教育研究 第4集、日本高等教育学会、玉川大学出版部、2001年
- ・高等教育研究 第9集、日本高等教育学会、玉川大学出版部、2006年
- ・高等教育研究 第10集、日本高等教育学会、玉川大学出版部、2007年
- ・高等教育研究 第11集、日本高等教育学会、玉川大学出版部、2008年
- ・高等教育研究 第13集、日本高等教育学会、玉川大学出版部、2010年
- ・高等教育研究 第14集、日本高等教育学会、玉川大学出版部、2011年
- ・高等教育研究 第16集、日本高等教育学会、玉川大学出版部、2013年
- ・高等教育研究 第17集、日本高等教育学会、玉川大学出版部、2014年
- ・現代教育制度改革への提言 上、日本教育制度学会、東信堂、2013年
- ・現代教育制度改革への提言 下、日本教育制度学会、東信堂、2013年
- ・ディープアクティブラーニング、松下佳代、勁草書房、2015年
- ・アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換、溝上慎一、東信堂、2014年
- ・教育方法原論、吉田卓司、三学出版、2013年
- ・学びの質を保証するアクティブラーニング、河合塾、東信堂、2014年
- ・学生の理解を重視する大学授業、ノエル・エントウィルス、玉川大学出版部、2010年

2013年度購入図書一覧（和書・順不同）

- ・大学入試の終焉、佐々木隆正、北海道大学出版会、2012年
- ・大学の教務Q&A、中井俊樹、玉川大学出版部、2013年
- ・シリーズ大学1巻グローバルゼーション・社会変動と大学、吉田文、岩波書店、2013年
- ・シリーズ大学2巻大衆化する大学、濱中淳子、岩波書店、2013年
- ・シリーズ大学3巻大学とコスト、上山隆大、岩波書店、2013年
- ・シリーズ大学4巻研究する大学、小林傳司、岩波書店、2013年
- ・シリーズ大学5巻教育する大学、広田照幸、岩波書店、2013年
- ・シリーズ大学6巻組織としての大学、広田照幸、岩波書店、2013年
- ・大学生のための「社会常識」講座、松野弘、ミネルヴァ書房、2011年

- ・大学生生活を楽しむ護身術、宇田光、ナカニシヤ出版、2012年
- ・大学1年生からのコミュニケーション入門、中野美香、ナカニシヤ出版、2010年
- ・大学生からのプレゼンテーション入門、中野美香、ナカニシヤ出版、2012年
- ・新編大学学びのことはじめ、佐藤智明、ナカニシヤ出版、2011年
- ・理工系学生のための大学入門、金田徹、ナカニシヤ出版、2012年
- ・プロフェッショナル・ディベロップメント、安藤厚、北海道大学出版会、2012年
- ・航行をはじめた専門職大学院、吉田文、東信堂、2010年
- ・日本とドイツの教師教育改革、渡邊満、東信堂、2010年
- ・教員養成学の誕生、遠藤孝夫、東信堂、2007年
- ・教育機会均等への挑戦、小林雅之、東信堂、2012年
- ・アメリカ連邦政府による大学生経済支援政策、犬塚典子、東信堂、2006年
- ・現代アメリカにおける学力形成論の展開、石井英真、東信堂、2011年
- ・アメリカ公民教育におけるサービス・ラーニング、唐木清志、東信堂、2010年
- ・ソーシャルキャピタルと生涯学習、ジョン・フィールド、東信堂、2011年
- ・ノンフォーマル教育の可能性、丸山英樹、新評論、2013年
- ・日本の社会教育・生涯学習、小林文人、大学教育出版、2013年

2012年度購入図書一覧（和書・順不同）

- ・比較教育学事典、日本比較教育学会編、東信堂、2012年
- ・大学のカリキュラムマネジメント—理論と実際—、中留武昭著、東信堂、2012年
- ・学生の学力と高等教育の質保証〈1〉、山内乾史緒、学文社、2012年
- ・教育学年報〈9〉大学改革（教育学年報9）、藤田 英典（編集）、片桐 芳雄（編集）、黒崎 勲（編集）、佐藤 学（編集）、世織書房 2012年
- ・高等教育論入門、早田 幸政（編集）、青野 透（編集）、諸星 裕（編集）、ミネルヴァ書房、2010年
- ・ボランティア教育の新地平、桜井 政成（編さん）、津止 正敏（編さん）著、ミネルヴァ書房 2009年
- ・大学生のためのリサーチリテラシー入門、山田剛史、林創著、ミネルヴァ書房、2011年
- ・大学における学習支援への挑戦、日本リメディアル教育学会監修、ナカニシヤ出版、2012年
- ・大学と変える大学教育、清水亮、橋本勝、松本美奈編、ナカニシヤ出版、2009年
- ・学生主体型授業の冒険、小田隆治、杉原真晃編著、ナカニシヤ出版、2010年

- ・大学におけるキャリア教育の実践、小樽商科大学地域研究会編 ナカニシヤ出版、2010年
- ・大学生のためのデザインキャリア、渡辺三枝子、五十嵐浩也、田中勝男、高野澤勝美著、ナカニシヤ出版、2011年
- ・大学生のキャリア発達、宮下一博著、ナカニシヤ出版、2010年
- ・協同学習の技法、E.F.Barkley/K.P.Cross/C.H.Major著、ナカニシヤ出版、2009年
- ・実践！アカデミックディベート、安藤香織、田所真生子編、ナカニシヤ出版、2002年
- ・生成する大学教育学、高等教育研究開発推進センター編、ナカニシヤ出版、2012年
- ・学生・職員と創る大学教育、清水亮、橋本勝編、ナカニシヤ出版、2012年
- ・学生の納得感を高める大学授業、山地弘起、橋本健夫編著、ナカニシヤ出版、2012年
- ・グローバルキャリア教育、友松篤信編、ナカニシヤ出版、2012年
- ・大学教育の臨床的研究 田中每実著、東信堂、2011年
- ・スタンフォード21世紀を創る大学、ホーン川嶋瑤子著、東信堂、2012年
- ・学士課程教育の質保証へむけて、山田礼子著、東信堂、2012年
- ・大学自らの総合力、寺崎昌男著、東信堂、2010年

2011年度購入図書一覧（和書・順不同）

- ・批判的思考力を育む、楠見 孝, 子安 増生, 道田 泰司、有斐閣、2011年
- ・高等教育室保証の国際比較、羽田 貴史, 杉本 和弘, 米澤 彰純、東信堂、2009年
- ・私立大学の経営と拡大・再編、両角亜希子、東信堂 2010年
- ・学習経験をつくる大学授業法、L. デイー・フィンク 、玉川大学出版部、2011年
- ・変貌する世界の大学教授職、有本 章、玉川大学出版部、2011年
- ・学級経営読本、小島 宏、玉川大学出版部、2012年
- ・転換期日本の大学改革、江原 武一、東信堂、2010年
- ・成績評価の厳格化と学習支援システム 半田 智久、地域科学研究会 2011年
- ・リーディングス 日本の教育と社会—⑫高等教育 塚原 修一, 広田 照幸、日本図書センター、2009年

2010年度購入図書一覧（和書・順不同）

- ・大学の反省、猪木武徳、NTT出版、2009年
- ・2011年版大学ランキング、週刊朝日進学MOOK、2010年
- ・初年次教育でなぜ学生が成長するのか 、河合塾、東信堂、2010年

- ・学力問題のウソ、小笠原喜康、PHP研究所、2008年
- ・大学とキャンパスライフ、武内清、上智大学出版、2005年
- ・リーディングス日本の教育と社会―第1巻学力問題・ゆとり教育、中村高康編、玉川大学出版部、2010年
- ・リーディングス日本の教育と社会―第3卷子育て・しつけ、橋本鉦市編、玉川大学出版部、2010年
- ・リーディングス日本の教育と社会―第5巻大学と学問、阿曾沼明裕、玉川大学出版部、2010年
- ・リーディングス日本の教育と社会―第6巻歴史教科書問題、村澤昌崇編、玉川大学出版部、2010年
- ・大学と社会、安原義仁、放送大学教育振興会、2008年
- ・高等教育質保証の国際比較、羽田貴史、東信堂、2009年
- ・私立大学の経営と拡大・再編、両角亜希子、東信堂、2010年
- ・戦後日本産業の大学教育要求、飯吉弘子、東信堂、2008年
- ・大学教育を科学する、山田礼子、東信堂、2009年
- ・大学における書く力考える力、井下千以子、東信堂、2008年
- ・2010年版大学ランキング、朝日新聞出版、2009年
- ・「教育改革」と労働のいま、日本社会臨床学会、現代書館、2008年
- ・国際移動と教育、江原裕美、明石書店、2011年
- ・グローバル化時代の教育の選択、増淵幸男、上智大学出版、2010年
- ・大学の危機、草原克豪、弘文堂、2010年
- ・教育用語辞典、山崎英則編、ミネルヴァ書店、2003年
- ・教育学をひらく、鈴木敏正、青木書店、2009年
- ・「教育」としての職業指導の成立、石岡学、勁草書房、2011年
- ・大学を変える、東海高等教育研究所、大学教育出版、2010年
- ・シティズンシップへの教育、中山あおい、新曜社 2010年
- ・学校の挑戦、佐藤学、小学館、2006年
- ・教師花伝書、佐藤学、小学館、2009年
- ・リーディングス日本の教育と社会―③子育て・しつけ、広田照幸日本図書センター、2007年
- ・リーディングス日本の教育と社会―⑤愛国心と教育、大内裕和、日本図書センター、2007年
- ・リーディングス日本の教育と社会―⑥歴史教科書問題、三谷博、日本図書センター、2007年
- ・リーディングス日本の教育と社会―⑦子どもと性、浅井春夫、日本図書センター、2007年

- ・リーディングス日本の教育と社会―⑧いじめ・不登校、伊藤茂樹、日本図書センター、2007年
- ・リーディングス日本の教育と社会―⑨非行・少年犯罪、伊藤茂樹、日本図書センター、2007年
- ・リーディングス日本の教育と社会―⑩子どもとニューメディア、北田暁大・大多和直樹、日本図書センター、2007年

2009年度購入図書一覧（和書・順不同）

- ・資料で読む戦後・日本と愛国心 第一巻、市川昭午、日本図書センター、2008年
- ・資料で読む戦後・日本と愛国心 第二巻、市川昭午、日本図書センター、2009年
- ・資料で読む戦後・日本と愛国心 第三巻、市川昭午、日本図書センター、2009年
- ・論文を書くためのWord利用法、くろしお出版、2009年
- ・知のナビゲーター、くろしお出版、2007年
- ・知へのステップ 改訂版、くろしお出版、2006年
- ・知のワークブック、くろしお出版、2006年
- ・落下傘学長奮闘記、黒木登志夫、中央公論新社、2009年
- ・最新教育データブック 第12版、清水一彦、時事通信出版局、2008年
- ・アカデミック・ポートフォリオ、ピーター・セルディン、玉川大学出版部、2009年
- ・基礎からわかるポートフォリオのつくり方・すすめ方、佐藤真、東洋館出版社、2002年
- ・国民国家システムの変容、吉川宏、学術出版会、2008年
- ・アメリカの大学開放、五島敦子、学術出版会、2008年
- ・近代日本教育会史研究、梶山雅史、学術出版会、2007年
- ・臨時教育審議会、渡部蕪、学術出版会、2006年
- ・大学英語教育における教授手段としてのポートフォリオに関する研究、峯石緑、溪水社、2002年
- ・大学の實力、読売新聞社、中央公論新社、2009年
- ・大学を語る 22人の学長、玉川大学出版部、1997年
- ・大学個性化の戦略、玉川大学出版部、2000年
- ・大学教師の自己改善、玉川大学出版部、2000年
- ・大学進学の世界、小林雅之、東京大学出版会、2009年
- ・21世紀の教育を拓く、山田耕路、西日本新聞社、2009年
- ・高等教育質保証の国際比較、羽田貴史、東信堂、2009年
- ・教育とエビデンス、経済協力開発機構、明石書店、2009年

- ・教育研究ハンドブック、立田慶裕、世界思想社、2008年
- ・キャリア教育概説、日本キャリア教育学会、東洋館出版社、2008年
- ・変貌する日本の大学教授職、有本章、玉川大学出版部、2008年
- ・統計学からの計量経済学入門、藤山英樹、昭和堂、2007年
- ・批判的リテラシーの教育、竹川慎哉、明石書店、2010年
- ・転換期を読み解く、潮木守一、東信堂、2009年
- ・リーディングス日本の教育と社会第1巻、学力問題・ゆとり教育、広田照幸、日本図書センター、2009年
- ・リーディングス日本の教育と社会第2巻、学歴社会・受験戦争、広田照幸、日本図書センター、2007年
- ・リーディングス日本の教育と社会第4巻、教育基本法、広田照幸、日本図書センター、2006年
- ・リーディングス日本の教育と社会第12巻、高等教育、広田照幸、日本図書センター、2009年

2008年度購入図書一覧（和書・順不同）

- ・学力低下は錯覚である、神永正博、森北出版、2008年（第9集に書評掲載）
- ・国立大学・法人化の行方、天野郁夫、東信堂、2008年
- ・フンボルト理念の終焉？—現代大学の新理念、潮木守一、東信堂、2008年
- ・教育人間論のルーマン、田中智志・山名淳、勁草書房、2004年
- ・他者の喪失から感受へ、田中智志、勁草書房、2002年
- ・大学生のための日本語表現トレーニングスキルアップ編、橋本修、三省堂、2008年
- ・自分 私を拓く、水原克敏、東北大出版、2003年
- ・三高の見果てぬ夢—中等・高等教育成立過程と折田彦市、巖平、思文閣出版、2008年
- ・札幌農学校と英語教育、外山敏雄、思文閣出版、1992年
- ・高等教育の経済分析と政策、矢野眞和、玉川大学出版部、1996年
- ・大学改革の海図、矢野眞和、玉川大学出版部、2005年
- ・教育社会の設計（UP選書）、矢野眞和、東京大学出版会、2001年
- ・入試改革の社会学、中澤渉、東洋館出版社、2007年
- ・大学とキャンパスライフ、武内清、上智大学出版、2008年
- ・学校システム論、竹内洋、放送大学教育振興会、2007年
- ・これからの教養教育—「カタ」の効用（未来を拓く人文・社会科学）、葛西康德、鈴木佳秀、東信堂、2008年

- ・ 団塊世代の同時代史（歴史文化ライブラリー）、天沼香、吉川弘文館、2007年
- ・ 戦後教育のなかの〈国民〉—乱反射するナショナリズム、小国喜弘、吉川弘文館、2007年
- ・ 知と学びのヨーロッパ史—人文学・人文主義の歴史的展開（MINERVA西洋史ライブラリー）、南川高志、吉川弘文館、2007年
- ・ 改めて「大学制度とは何か」を問う、館昭、東信堂、2007年
- ・ 原点に立ち返っての大学改革、館昭、東信堂、2006年
- ・ 30年後を展望する中規模大学マネジメント・学習支援・連携、市川太一、東信堂、2006年
- ・ ティーチング・ポートフォリオ—授業改善の秘訣、土持ゲーリー法一、東信堂、2007年
- ・ 世界標準の読解力—OECD・PISAメソッドに学べ、岡部憲治、白日社、2007年
- ・ 心理統計学の基礎—統合的理解のために、南風原朝和、有斐閣アルマ、2002年
- ・ 実践的研究のすすめ—人間科学のリアリティ、小泉潤二・志水宏吉、有斐閣、2007年
- ・ 大学の学び・入門—大学での勉強は役に立つ！、溝上慎一、有斐閣アルマINTEREST、2006年
- ・ 大学生の就職とキャリア—「普通」の就活・個別の支援、小杉礼子、勁草書房、2007年
- ・ 大学生の職業意識とキャリア教育、谷内篤博、勁草書房、2005年
- ・ 働く意味とキャリア形成、谷内篤博、勁草書房、2007年
- ・ キャリア教育と就業支援、小杉礼子・堀有喜衣、勁草書房、2006年
- ・ 教育史研究の最前線、教育学史会編、日本図書センター、2007年
- ・ 資料で読む前後日本と愛国心〈第1巻〉復興と模索の時代—一九四五～一九六〇、市川昭午、日本図書センター、2008年
- ・ 大学ランキング、「週刊朝日」進学MOOK、2008年
- ・ 日本の大学教授市場（高等教育シリーズ142）、山野井敦徳、玉川大学出版部、2007年
- ・ ベストプロフェッサー（高等教育シリーズ）、ケン・ベイン、玉川大学出版部、2008年
- ・ 大学の英語教育を変える—コミュニケーション力向上への実践指針、山地弘起、玉川大学出版部、2008年
- ・ アメリカの学生獲得戦略（高等教育シリーズ）、山田礼子、玉川大学出版部、2008年
- ・ 大学教育を変える教育業績記録、ピーター・セルディン、玉川大学出版部、2007年

2007年度購入図書一覧（和書・順不同）

- ・ 大学を解体せよ、中野憲志、現代書館、2007年
- ・ 大学図鑑！2008、オバタカズユキ、ダイヤモンド社、2007年
- ・ 学生諸君！ 夏目漱石他、光文社、2006年

- ・大学教育のエクセレンスとガバナンス、地域科学研究会、地域科学研究会、2006年
- ・教育学事始め、氏家重信、北大路書房、2007年
- ・学生による教育再生会議、東京学生教育フォーラム、平凡社新書、2007年
- ・大学改革の社会学、天野郁夫、玉川大学出版部、2007年
- ・大学のイノベーション、坂本和一、東信堂、2007年
- ・あたらしい教養教育をめざして、大学教育学会、東信堂、2004年
- ・学力を育てる、志水宏吉、岩波書店、2006年
- ・大学ランキング、2008年版、週刊朝日進学MOOK、朝日新聞社、2007年
- ・大学の教育力、金子元久、筑摩書房、2007年
- ・教育デザイン入門、実践的ソフトウェア教育コンソーシアム、オーム社、2007年
- ・大学改革その先を読む、寺崎昌男、東信堂、2007年
- ・大学卒業制度の崩壊、藤田整、文芸社、2007年
- ・大学教育の思想、絹川正吉、東信堂、2006年
- ・大学における初年次少人数教育と「学びの転換」、東北大学高等教育開発推進センター、東北大学出版会、2007年
- ・AO型入学選抜の多様な進化(上)、地域科学研究会、地域科学研究会、2000年
- ・AO型入学選抜の多様な進化(下)、地域科学研究会、地域科学研究会、2001年

2006年度購入図書一覧（和書・順不同）

- ・恐るべきお子さま大学生たち、ピーター・サックス、草思社、2000年（第6集に内容紹介掲載）
- ・息子・娘を成長させる大学、読売新聞社、読売新聞社、2006年
- ・潰れる大学・伸びる大学辛口採点2007年版、梅津和郎、エール出版社、2005年
- ・大学ランキング 2007年版、朝日新聞社、朝日新聞社、2006年
- ・危ない大学・消える大学 2007年版、島野清志、エール出版社、2006年
- ・大学改革の社会学、天野郁夫、玉川大学出版部、2006年
- ・大学生活ナビ、玉川大学コア・FYE教育センター編、玉川大学出版部、2006年
- ・大学論、エイブラハム・フレックスナー、玉川大学出版部、2005年
- ・プロフェッショナル化と大学、日本高等教育学会編、玉川大学出版部、2004年
- ・ヨーロッパの高等教育改革、ウーリッヒ・タイヒラー、玉川大学出版部、2006年
- ・アジアの高等教育改革、フィリップ・G・アルトバック&馬越徹編、玉川大学出版部、2006年
- ・戦後日本の高等教育改革政策、土持ゲーリー法一、玉川大学出版部、2006年

- ・私学高等教育の潮流、P.h.G・アルトバック編、玉川大学出版部、2004年
- ・高等教育 改革の10年、日本高等教育学会編、玉川大学出版部、2003年
- ・大学教育「教育評価ハンドブック」、ラリー・キーン&マイケル・D・ワガナー、玉川大学出版部、2003年
- ・知識基盤社会と大学の挑戦、佐々木毅、東京大学出版会、2006年
- ・オランダの個別教育はなぜ成功したのか、リヒテル直子、平凡社、2006年
- ・じょうずな勉強法、麻柄啓一、北大路書房、2005年
- ・大学講義の改革、宇田光、北大路書房、2005年
- ・大学基礎講座 改増版、藤田哲也、北大路書房、2006年
- ・“学生”になる！、浦上昌則、北大路書房、2006年
- ・SD（スタッフ・ディベロップメント）が育てる大学経営人材、山本眞一、文葉社、2004年
- ・21世紀の大学職員像、立命館大学、かもがわ出版、2005年
- ・人が学ぶということ、今井むつみ、野島久雄、北樹出版、2003年
- ・研究計画書デザイン、細川英雄、東京図書、2006年
- ・これで書ける！大学院研究計画書攻略法、進研アカデミーグラデュエート大学部編、オクムラ書店、2002年
- ・大学力、有本章、北垣郁雄、ミネルヴァ書房、2006年
- ・大学激動、朝日新聞社、朝日新聞社、2003年
- ・大学事務職員のための高等教育システム論、山本眞一、文葉社、2006年
- ・認知心理学者新しい学びを語る、森敏昭、北大路書房、2002年
- ・授業を変える、米国学術研究推進会議、北大路書房、2002年
- ・学力低下論争、市川伸一、ちくま新書、2002年
- ・学ぶ意欲の心理学、市川伸一、P H P 研究所、2001年
- ・学ぶこと・教えること、鹿毛雅治、金子書房、1997年
- ・授業デザインの最前線、高垣マユミ、北大路書房、2005年
- ・教材設計マニュアル、鈴木克明、北大路書房、2002年
- ・大学講義の改革、宇田光、北大路書房、2005年
- ・教育力、斎藤孝、岩波新書、2007年

所収和雑誌

- ・大学教育学会誌 1980年～ No.1～ (旧一般教育会誌)

・大学資料	1989年～	No.139～
・大学と学生	1989年～2011年	No.397～565
・内外教育	1989年～	No.4023～
・文部科学時報	1989年～2012年	No.1344～1635
・教育委員会月報	1989年～	No.465～
・教育情報パック	1990年～2007	No.401～806
・I D Eー現代の高等教育	1991年～	No.276～

継続購入資料

・発達障害白書	1996年～	
・文部科学白書（旧我が国の文教政策）	1996年～	
・学校基本調査報告書	1992年～	（初等中等教育、高等教育）

既刊「教育研究所報告集」の主要内容

第15集 2015年3月

○研究報告

- ・ 本学における成績評価の現状—教員アンケート調査結果の概要— 斎藤 誠
- ・ 2014年度新入生意識調査から見た新入生の特徴と入学後成績の関係 神林 博史
- ・ 大学生活の評価(2)—「2013年度卒業生意識調査」より 片瀬 一男
- ・ “TGベーシック”の現状と課題
— カリキュラム導入からの2年を振り返って — 千葉 昭彦
- ・ 理科教育を考える 佐藤 篤

第14集 2014年3月

○研究報告

- ・ 大学生活の評価—「2012年度卒業生意識調査」より 片瀬 一男
- ・ 本学における不本意入学者の特徴：
東北学院大学新入生意識調査の分析 神林 博史
- ・ 本学の共通英語教育のあり方を考える
—英語教育の最近の動向を踏まえて— 渡部 友子

第13集 2013年3月

○研究報告

- ・ 現実感をもった英語教育を：英語教育改革私案 渡部 友子
- ・ 「大学組織の意思決定における職員参加」調査報告 亀谷 純

○報告

- ・ 今回の本学教養教育改革について—その背景、意義と今後の課題— 斎藤 誠

第12集 2012年3月

○研究報告

- ・ アカデミックスキル・ルーブリックの開発—初年次教育におけるスキル評価の試み—
葛西 耕市・稲垣 忠

○報告

- ・ 「学生生活実態調査」(2006年・2010年)にみられる本学学生の特徴

—私大連全体との比較の中で—

斎藤 誠

○書評

・今日の「大学改革」の可能性 —潮木守一『フンボルト理念の終焉？現代大学の新次元』を読んで—

千葉 昭彦

○シリーズ・東北学院大学の教育を考える 第3回

・教養教育雑感 —自然科学教員が見た大学教育—

高橋 光一

第11集 2011年3月

○研究報告

・初年次教育による高校と大学の接続—東北学院大学教養学部の場合— 片瀬 一男・葛西 耕市

・入試方法と学業成績—東北学院大学2009年度卒業生データの分析— 神林 博史

○報告

・2009年度「卒業時意識調査」報告 加藤 健二

○シリーズ・東北学院大学の教育を考える 第2回

・東北学院（大学）の英語教育を考える 戸田 征男

第10集 2010年3月

○特別報告

・本学の教育課程改革にむけての私案 斎藤 誠

○研究報告

・AO入試に関する試論（3） 片瀬 一男

—なぜ入試改革は「失敗」しつづけたのか？

：東北学院大学工学部の場合—

・日本の大学の「教養教育」の新たな動向

—日本社会や大学教育の構造転換の中で—

岩谷 信

○報告

・2009年度「新入生意識調査」について 教育研究所

○シリーズ・東北学院大学の教育を考える 第1回

・「自己チュウ」批判論の盲点

—予言された「ナルキッソスの死」の意味—

岩谷 信

第9集 2009年3月

○研究報告

- ・ A O入試に関する試論 (2) 片瀬 一男
- ・ 教養教育科目としての「キリスト教学」の意味と課題 佐藤 司郎
- ・ 性の多様性に対応する人権教育についての考察 魚橋 慶子

○報告

- ・ 「大学生の勉強法」を教える初年時授業
—「言語文化基礎演習」の授業内容とその改善プロセス 佐伯 啓
- ・ 学士課程教育のめざす方向とその背景 吉村功太郎

○図書紹介

- ・ 神永正博著『学力低下は錯覚である』 菅山 真次

第8集 2008年3月

○報告

- ・ 初年次教育としての「大学生活入門」—法学部における実践報告— 斉藤 誠
- ・ 社会変容とこれからの教養教育 佐々木俊三

○研究報告

- ・ A O入試に関する試論 (1)
—教養学部における A O入試入学者の成績を事例に— 片瀬 一男

○特別報告

- ・ 各大学の「大学教育センター」系組織とその特色
—本学の「教育力の向上」を目指して・準備資料— 教育研究所・所員会議

第7集 2007年3月

○特別報告

- 「大学教育への取り組みに関する調査」(2006年11月実施)
- ・ ユニバーサル化した大学における教員の苦悩
—東北学院大学の教員意識調査から— 片瀬 一男
- ・ 跋：調査報告書を読んで 副学長(学務担当) 大塚 浩司

○報告

- ・ 経済学科原級留の実態とその要因の調査報告 千葉 昭彦

○教育研究所所蔵図書紹介

- ・『恐るべきおさま大学生—崩壊するアメリカの大学』 松本 洋之

第6集 2006年3月

○報告論文

- ・「工学基礎教育センター」の果たす役割と期待 石橋良信、星 善元、女川 淳
- ・文学部歴史学科におけるキャリア支援教育
—「就職の基礎」の〈解説〉を中心に— 楠 義彦

○研究報告

- ・ハビトゥスとしての読書の力
—東北学院大生の図書館利用と学業成績— 片瀬 一男

第5集 2005年3月

○報告論文

- ・成績分析からみた大学教育研究(4)
—アドミッションズ・オフィス方式による入学生の学業成績を中心に— 大江 篤志
- ・経済学科生の入試類型別成績
調査報告：本学経済学科生の成績と入試類型との関連について 原田 善教
- ・退学者動向・調査報告(1) 教養学部の場合
意欲があって大学を去る者、意欲を失ってやめる者
二つの不幸な退学理由へのブル代数アプローチ 片瀬 一男

○特別報告

- ・教養学部「学生による授業評価」実施概要 教養学部授業評価委員会

第4集 2004年3月

○報告論文

- ・東北学院大学工学部における教育改善の試みと将来構想 石橋良信、星 善元、小野 孝、志子田有光、石川雅美
- ・カード利用による「事案のルール」獲得の可能性 陶久 利彦
- ・互惠を原則とした地域と大学との連携
—東北学院大学の社会教育実習・ボランティア活動の実践— 水谷 修
- ・NPOが大学と連携することの意義
—東北学院大学「ボランティア活動」への取り組み—

特定非営利活動法人グループゆう 中村 祥子

・東北学院大学と連携した講座造り実習の取り組み

仙台市中央市民センター 今川 義博

第3集 2003年3月

○成績分析からみた大学教育の研究(3)

大江 篤志

入学類型と全学共通科目学業成績との関係を中心に

1. 課題と方法 (1)目的 (2)方法 分析対象とする学生/入学類型/全学共通科目/
英語系科目A1/英語系科目A2/4科目の学業成績の関係
2. 全学共通科目の学科別学業成績平均 (1)キリスト教学系科目X1 (2)キリスト教学系科目X2
(3)英語系科目A1 (4)英語系科目A2 (5)4科目の学業成績の関係
3. 文学部 3-1英文学科 キリスト教系科目X1.X2 3-2史学科 キリスト教系
科目X1.X2/英語系科目A1.A2
3. 経済学部 4-1経済学科 キリスト教系科目X1.X2/英語系科目A1.A2
4-2商学科 キリスト教系科目X1.X2/英語系科目A1.A2
4. 法学部法律学科 キリスト教系科目X1.X2/英語系科目A1.A2
5. 工学部 6-1機械工学科 キリスト教系科目X1.X2/英語系科目A1.A2 6-2電気工学科 キ
リスト教系科目X1.X2/英語系科目A1.A2 6-3応用物理学科 キリスト教系科目X1.X2/
英語系科目A1.A2 6-4土木工学科 キリスト教系科目X1.X2/英語系科目A1.A2
1. 教養学部教養学科 7-1人間科学専攻 キリスト教系科目X1.X2/英語系科目A1.A2 7-2言
語科学専攻 キリスト教系科目X1.X2/英語系科目A1.A2 7-3情報科学専攻 キリスト教
系科目X1.X2/英語系科目A1.A2
2. 二部 8-1二部英文科 キリスト教系科目X1.X2 8-2二部経済学科 キリスト教系科目X
1.X2/英語系科目A1.A2
3. 総括と検討 9-1主要入学類型の分布 男子/女子 9-2学科内部における学業成績の男女差
9-3入学類型別にみた学業成績の男女差 キリスト学系科目/英語系科目 9-4入学類型と学業成
績 キリスト学系科目/英語系科目/キリスト教系科目と英語系科目の関係

おわりに

第2集 2002年3月

○成績分析からみた大学教育の研究(2)

大江篤志・水谷修、他

入学類型と学業成績との関係

4. 課題と方法 (1)目的 (2)方法
5. 文学部 2-1英文学科 入学類型の分布/登録科目, 放棄科目, 学業成績/
学業成績/英文科小括 2-2史学科 入学類型の分布/登録科目, 放棄科目,
学業成績/学業成績/史学科小括
6. 経済学部 3-1経済学科 入学類型の分布/登録科目, 放棄科目, 学業成績/学業
成績/経済学科小括 3-2商学科 入学類型の分布/登録科目, 放棄科目,
学業成績/学業成績/商学科小括
7. 法学部法律学科 入学類型の分布/登録科目, 放棄科目, 学業成績/学業成績/法律学科小括
8. 教養学部教養学科 5-1人間科学専攻 入学類型の分布/登録科目, 放棄科目, 学業成績/学業成
績/人間科学専攻小括 5-2言語科学専攻 入学類型の分布/登録科目, 放棄科目, 学業成績/学
業成績/言語科学専攻小括 5-3情報科学専攻 入学類型の分布/登録科目, 放棄科目, 学業成
績/学業成績/情報科学専攻小括
9. 二部 6-1二部英文科 入学類型の分布/登録科目, 放棄科目, 学業成績/学業成績/二部英文学科
小括 6-2二部経済学科 入学類型の分布/登録科目, 放棄科目, 学業成績/学業成績/二部経済
学科小括

おわりに

第1集 2001年3月

○成績分析からみた大学教育の研究(1)

大江篤志・水谷修

はじめに

1. 各学科の学生構成 (1)問題関心 (2)学部学科別学生数 (3)各学科の男女比
2. 対象卒業生の成績
3. 合否、放棄科目数の学科男女別分布 文学部四学科 経済学部三学科
法学部法律学科 教養学部 小括
4. 学生の移動の場 4-1-(1)入学類型の多様化 (2)留年と原級留置き、休学と退学
(3)科目の性格 (4)教員カテゴリー (5)課外活動などとの関連
4-2-開放系システムとしての大学教育

東北学院大学教育研究所規程

(設置)

第1条 東北学院大学（以下「本学」という。）に教育研究所（以下「本研究所」という。）を置く。

(目的)

第2条 本研究所は、本学教育及び高等教育に関する調査研究及び提言を行い、本学教育の改善に資することを目的とする。

(事業)

第3条 本研究所は、前条の目的達成のため次に掲げる事業を行う。

- (1) 本学教育（学生の学修行動及び学修成果を含む。）の現状に関する調査研究
- (2) 本学教育の基本問題に関する研究
- (3) 高等教育の基本問題に関する研究
- (4) 本学教育の改善に関する提言
- (5) 報告書等の刊行、講演会等の開催
- (6) 各号に掲げる事業実施に必要な資料の収集及び整理
- (7) 第1号から第5号に掲げる事業実施に関する情報提供
- (8) その他本研究所の目的遂行に必要な事業

(組織)

第4条 本研究所は、所長1名、所員若干名をもって組織する。

(所長)

第5条 所長は、学長が委嘱するものとする。

2 所長の任期は2年とし、再任を妨げない。

(所員)

第6条 所員は、本学の専任教員から所長が推薦し、学長が委嘱する。

2 所員の任期は2年とし、再任を妨げない。

(総会)

第7条 総会は、年1回所長が招集する。ただし所長が必要と認めるときは、臨時総会を招集することができる。

2 総会は、所員の過半数の出席がなければ開くことができない。

3 総会の議長は、所長をもって充てる。

4 総会は、本研究所の事業及びこれに関することを審議する。

5 総会の決議は、出席者の過半数をもって決する。

(事務職員)

第8条 本研究所に事務職員若干名を置く。

2 事務職員は、本研究所の事業遂行に必要な事務を処理する。

(経費)

第9条 本研究所の費用は基金、寄附金、事業収入及び本学からの補助金によって支弁する。

(改廃)

第10条 この規程の改廃は、総会が発議し、教授会の議を経て学長が行い、理事会の承認を得るものとする。

附 則

1 この規程は、平成10（1988）年4月1日から施行する。

2 昭和42年4月1日制定の東北学院大学教育研究所規定及び昭和47年10月1日制定の東北学院大学一般教育研究所規程は廃止する。

附 則（平成27年7月1日改正第58号）

この規程は、平成27（2015）年7月1日から施行し、平成27（2015）年4月1日から適用する。

第15集 執筆者紹介（掲載順）

神林博史（東北学院大学教養学部教授）

片瀬一男（東北学院大学教養学部教授）

松崎光弘（東北学院大学地域協働教育推進機構特任教授）

渡部友子（東北学院大学教養学部准教授）

教育研究所 所員紹介

所長	教養学部教授	水谷 修
所員	文学部教授	楠 義彦
所員	経済学部教授	千葉 昭彦
所員	経営学部准教授	尾田 基
所員	法学部講師	白井 培嗣
所員	工学部教授	遠藤 孝夫
所員	工学部教授	神永 正博
所員	教養学部教授	大江 篤志
所員	教養学部教授	片瀬 一男
所員	教養学部教授	神林 博史
所員	教養学部准教授	岡崎 勘造
所員	教養学部准教授	金井 嘉宏
所員	教養学部准教授	渡部 友子
所員	教養学部准教授	武田 敦志
所員	教養学部准教授	天野 和彦

東北学院大学教育研究所報告集 第16集

発行日 2016年3月30日

編集兼
発行人 水谷 修

発行所 東北学院大学教育研究所
〒981-3193 仙台市泉区天神沢2-1-1
Tel. 022-375-1184

印刷 株式会社東北堂
〒982-0804 仙台市太白区鉤取一丁目212
Tel. 022-245-0229